

被災地 東松島からの報告

震災から3年 復興を実感する2014年へ

熊本と東松島の「絆」これまで頂いた支援と東松島の現状

東日本大震災発生後の東松島市には、これまで熊本県の皆さんから多くの支援を頂いています。ここでは、主な概要を紹介します。



震災発生直後の平成23年4月から12月まで、熊本県の県職員・市町村職員による合同支援チーム「チーム熊本」(全34次)が東松島市に派遣され、市役所での災害対応窓口業務や申請書類の整理、市内でのボランティア活動など多岐にわたるご支援をいただきました。

平成24年4月からは熊本市職員および熊本県内の市町村職員約40人が、東松島市の復興事業を担うため、最長1年間の長期派遣をされています。

また、熊本県内の小学校から被災した東松島市の学校へ支援米の提供、熊本市図書館より、東松島市図書館への移動図書館バスの貸し出しなど、さまざまな形のご支援を頂きました。そして、熊本県PRキャラクター・くまモンも、被災した東松島の保育所などを訪れ、子どもたちを励ましていただきました。

現在、被災した東松島市民の皆さんが市内の1450戸以上の仮設住宅に同居し、また市

内外の民間賃貸住宅などで、今後の生活や将来の展望を模索しています。

今後の大きな課題として「住宅の再建」、「公共交通機関の復旧」、「雇用の確保と地域経済の復興」などが挙げられます。

特に快適な住環境と安定した雇用の確保が実現しなければ、本市からの人口流出を招きかねません。

東松島市では、被災した市民の皆さんにとって「災害に強く安全なまち」、「安心して笑顔で暮らせるまち」となるよう、内陸部への集団移転先の造成工事と災害公営住宅の建設・同居、併せて市民の住宅再建を推進しています。

同時に、新たな地域コミュニティの形成・再構築のため、市と市民が一体となって協働で取り組む組織を立ち上げました。

また、持続可能で新たなライフスタイルとなるモデル都市を目指し、東松島市は3年前、国の環境未来都市の認定を受け、昨年夏には野蒜(のびる)海岸

近くにメガソーラーが完成しました。

そして、震災後から不通となり、代行バスでの運行が続いているJR仙石線は、鉄道路線を内陸部に移して平成27年中に開通予定です。

津波で被害を受けた農地や漁港・河川海岸の堤防の復旧工事が現在も進められ、地域経済の担い手である市内の事業者たちも、それぞれの業種・分野で頑張っています。

復興への道のりはまだまだ長く険しいものがあります。これからも、被災地・東松島のことを思うこと、記憶することだけでも、大きな支援になります。

熊本県と東松島市の縁と絆が、これからもより一層深まることを願っています。



東松島市 総務課 小山 淳志さん



大曲浜・北上運河沿い (上:被災直後、下:現在)

2013年の東松島の復興へ向けた歩みを「市報ひがしまつしま」に掲載された写真で紹介します。

奥松島「絆」ソーラーパーク

奥松島「絆」ソーラーパークは復興と「環境未来都市」を支援する民間企業の事業提案から実現したものです。

面積は4・7^{ヘクタール}で東京ドームとほぼ同じ広さの敷地に縦166・2^{メートル}、横99^{メートル}の太陽パネルが1万4616枚並べられています。



▲奥松島「絆」ソーラーパークの上空からの全景(平成25年6月撮影)

発電能力は約2メガワット(1999^{キロワット})で、一般家庭の約600世帯に相当する発電が可能です。

発電した電気は全て電力会社に売電します。

敷地内に高さ4^{メートル}の築山があり、環境学習の場として自由に見学することができます。

ブルーインパルスが松島基地に帰還



▲東北六魂祭りでアクロバット飛行を披露(平成25年6月撮影)

航空自衛隊のアクロバット飛行チーム「ブルーインパルス」は、東松島市にある松島基地に所属し、制式部隊名は「第4航空団飛行群第11飛行隊」と言います。

航空ファンをはじめ全国的に有名で、日常的に訓練で東松島の空を飛び、震災前は国内外の航空祭などでアクロバット飛行を披露していました。

震災発生時は、九州新幹線のオープニングセレモニーのために九州に滞在しており、機体やパイロットへの直接の被害を免れました。

松島基地の機能がほぼ完全に失われたため、機能回復や復旧まで九州に一時避難していましたが、平成25年3月末をもって松島基地に帰還し、同年6月開催の東北六魂祭でアクロバット飛行を披露しました。

災害公営住宅の整備

戸建型および集合型の災害公営住宅として約1千戸を整備しました。

今年4月には、小松谷地区災害公営住宅をはじめとする約250戸が完成し、順次入居を開始していきます。

なお、平成27年度までに順次整備・完成・入居していく予定です。



今年4月入居開始予定の小松谷地区災害公営住宅には入居希望の市民などが訪れました(平成25年11月撮影)

東松島市は、仙台市の北東に位置し、日本三景の一つである松島と面する市です。震災時には人口約4万3千人、震災による死者・行方不明者は1133人にも上りました。

震災後、氷川町からも「チーム熊本」の一員として、8人の職員が東松島市役所での業務に携わりました。

震災後3年がたち、熊本では被災地の情報に触れる機会も少なくなってきました。そんな中、被災地の現状はどうなっているのかを氷川町の皆さまにお伝えするために、今回東松島からの報告という形で記事をご提供いただきました。

少しずつ復興は進んでいますが、瓦礫が片付いただけという場所が多くあるのが現実です。震災のこと、被災地のことを忘れられてしまうのが、一番恐ろしいというのが今の被災者の皆さんのお気持ちではないでしょうか。

まだ震災は終わっていないというところをご理解いただき、これからも被災地に思いを寄せ続けていただきますよう、被災地を訪れた者として切に願います。